

平成31年度「しがこども体験活動指導者研修会」

子どもの体験活動に関わる団体、施設、指導者等が一堂に会し、子どもの体験活動の充実と支援者のスキルアップを図ることを目的として研修会を実施しました。

【日時】

令和元年5月30日（木）
13:20～16:30

【会場】

滋賀県庁東館7階大会議室

【対象】

社会教育関係者、学校教育関係者、
自然体験活動の企画・運営者等、
（しがこども体験学校登録団体）
市町教育委員会生涯学習主管課、
公民館、生涯学習関連施設の職員

【参加者】

50名

日程	内容
13:00	受付
13:20	開会行事 開会あいさつ 日程説明
13:30	講演 「自然体験活動におけるリスクマネジメント」 講師：関西学院大学人間福祉学部 教授 甲斐 知彦 氏
14:55	説明：自然体験活動安全管理マニュアル 作成の手引きについて
15:05	休憩
15:15	協議、情報交換 テーマ別にグループ交流、活動等の情報交換
16:15	グループより発表 講師より助言
16:30	閉会

【内容】

甲斐氏の講演では、「最初に事故が起きるとどうなるのか？」の問いから始まり、指導者として想定しておくべきリスクとそれに伴う責任について具体例を交えて示してくださいました。また、事故を防ぎ、被害を最小限にする取組みを考えるヒントとして、リスクマップの活用を紹介いただきました。簡単なワークショップを通して、体験活動に潜む危険因子の発見・把握から危険因子の評価を行い、対処法を決める考え方についての演習はたいへん好評でした。

それぞれの指導者が自らの気づきによって、指導法を考え直すきっかけを作ってくださいました。講演の最後には、リスク回避にばかりに気を取られて、活動が縮小するのではなく、本来の目的や目標を達成するために、どのような支援や指導の工夫ができるかを考えていくことが大切であることを示していただきました。さらに、魅力ある体験活動が開催できるように工夫していくことを再確認していただき、参加者へエールをおくってくださいました。

後半は、テーマ別のグループ交流会を行いました。グループ協議では、事前にお聞きした話したいテーマ（A：プログラム内容の充実、安全の確保について、B：人材の育成・確保、財源の確保について、C：参加者獲得のための効果的な広報・情報発信の方法について）ごとに分かれて、情報交換や課題の共有、協議に熱心に参

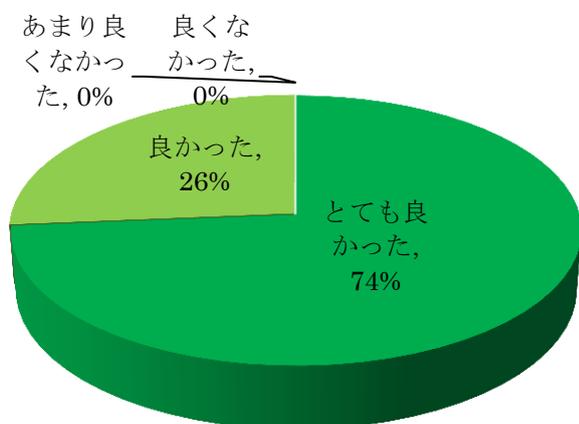


加いただきました。グループ発表の内容を受けて、講師からアドバイスをいただき、参加者にとっては新たな気づきや学びを得る良い機会となりました。

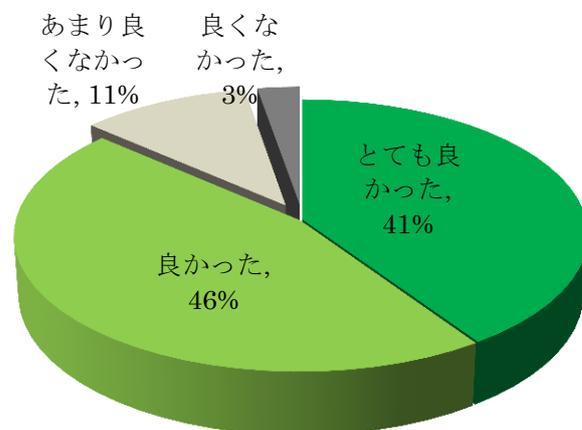
【参加者の声】

＜参加者アンケート結果 より＞ ※ 回答分の集計

前半の講演について (回答者 37名)



後半のグループ協議について (回答者 38名)



＜講演についての感想（抜粋）＞

- ハインリッヒの法則、リスクマップなど、データに基づく理論的な視点を知ることができ、リスクマネジメントについての見方が変わりました。安全管理、なんとなくではいけないし、なんでも排除するというのも違うこと、さらに深く学びたくなりました。
- 非常に分かりやすくご説明いただき、参考になった。リスクマネジメントを意識し、考えるだけでなく、リスクマネジメントの必要性や方法を周知していくことを求められているので、そういった場面でも大変参考になるお話でした。
- ヒューマンエラー（ミス、スリップ、能力の限界、違反）について、よく理解できた。これらを意識して、リスクマネジメントを行い、安全な活動を行いたいです。

＜グループ協議についての感想（抜粋）＞

- 安全の理解について、様々な視点を得ることができました。多くの改善点（自分たちの活動について）のヒントを得ることができました。
- 行政の方や現場での経験のある方など、様々な立場の方の思い、意見が聞けて、リスクマネジメントにおける重要なことについての意見交換ができて、とても有意義な時間となりました。
- 研修で学んだ同じものを見ていても、注意してみているところがちがうということを経験できました。細かなことでもコミュニケーションをとるべきだと感じた。
- 交流時間も十分にいただいていたので話しやすかったです。テーマごとにわかれていると、同じ各活動や事業の方々からの具体的な事例や今後の提案をいただけて大変良かった。3つのテーマがあるが、いずれも連動しているように思う。

